

平成29年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立新翔高等学校 学校長名： 永石 和 印

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれ、地域から信頼される学校 豊かな感性と思いやりの心を持った時代の変化に主体的に対応できる生徒 社会に役立ち、社会及び地域社会に求められる生徒
------------------------	--

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 多様な生徒に対応するため授業改善を進め、学力の向上を図る。
	2 社会との繋がりを意識させ、モラルや規律を遵守する姿勢を育てる。
	3 防災・安全教育を通し、自他の生命を尊重する態度を育てる。
	4 キャリア教育を充実させ、生徒の希望進路の実現を図る。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
育友会総会並びに評議員会の場で自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせる。また、ホームページを通して広く公表する。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 9 日 現 在)	
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	小・中学校時代に躰き、学習習慣が確立されていないため、自主的に学習に取り組もうとする姿勢が弱く、基礎が不十分で達成感が低く、授業参加に積極的になれない生徒が多いのが現状である。課題は進路目標を早期に設定させ、常に目標を意識させるとともに、その達成に向け努力させる指導にある。そのためには、学年や進路指導部との連携を密に行い計画的な取り組みが行えるよう教務的な観点から検討し、学習習慣を定着させる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 組織的に個別指導などに取り組んでいるか 積極的に授業に参加させることができているか 教育改革への準備はできているか 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を定着させるための支援と補習の充実 自主的・協働的な学習態度の育成(課題解決型) 生徒の学習意欲の向上、教員の授業力・指導力の向上(主体的・対話的で深い学び) 学習障害のある生徒への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 考査前の個別指導や補習の実施 長期休暇中の補習の実施 個人目標の設定と課題等の提出率100%化 授業改善のための研究授業、公開授業・研究協議の実施 黒板の使用方法的統一化 全員参加の校内研修実施 	<p>個別指導や補習については、学習支援が必要な生徒だけでなく、積極的な参加もあり良好であった。提出物については100%には至らなかったが、提出を促す努力をした結果昨年度に比べて提出率は向上した。研究授業、公開授業後の研究協議等の研修については徹底できなかったが、多くの教員がICTを活用した授業に積極的に取り組めた。学習障害等のある生徒への支援については、学年・教育相談を中心に計画的に取り組めた。</p>	B
2	学校生活全般において、やや依存型で自ら考え行動できる生徒が減少している傾向にある。大多数は素直で純朴な生徒であるが、中には幼さが残り、規範意識や道徳観が十分備わっておらず校則違反や他者への思いやりに欠ける言動を繰り返してしまう生徒もいる。また、保護者の放任や教育力の低下といった家庭環境の不十分さにより自尊感情や自己肯定感が育たず、問題行動や不登校につながる傾向も見られる。さらには、人権を無視した言動や行動が見られるようになり、人を大切に思えない現状がうかがえる。こうした課題に対して、HR活動、生徒会活動、部活動等の活性化を図ることで自己有用感や集団帰属意識を高めていけるよう取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 組織での一体化した指導ができているか 問題行動に対し改心や成長を促す指導ができているか 生徒の実態や課題に応じた学習の機会を計画的に設けているか 校内美化活動を推進し、生徒会活動を活性化させているか 各委員会活動が活発に行われ、生徒の自主的活動がみられるか 人権教育と連携した生徒指導がなされているか 部活動に参加し、自らを心身ともに鍛えようとしているか 	<ul style="list-style-type: none"> 校則・モラル遵守徹底のための指導 校門指導や休憩時間中の校内巡回や昼休みの校門指導の実施 問題行動や不登校の生徒に対する教育相談、保健室と連携した指導 人権教育の推進 人権尊重精神の涵養 生徒会活動の活性化 校内美化活動の実施 部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な服装頭髪検査 チェック表を用いた指導 アセンブリー、各種講演等での講話 QUテストの実施と活用 迅速かつ適切な事情聴取、面談、ケース会議等の実施 家庭との連携 教育相談、SC、SSW、各種外部機関等との連携 人権LHR等の計画的実施 いじめアンケート年3回実施 定期的な委員会活動日の設定や朝の朝の挨拶運動の実施 HR役員による自主的な清掃活動の実施 中学校との連携、交流活動等の推進 	<p>定期的な服装検査や種々の訓話、チェック表を用いた指導を通して、茶髪や服装の乱れは改善されてきた。問題行動も、行為の反省に加えルールの必要性、仲間や保護者の存在等を考えさせることで、行動を律する姿勢を育むことができた。いじめアンケートでは、仲間意識や人権尊重の精神も向上してきていると思われる。一部の生徒ではあるが、SNSやライン等で生徒間においても配慮に欠ける事案が起きている。その都度、生徒指導部を中心に学校全体で早急かつ適正に指導した。昨年度より新たに導入したトイレ清掃は、校内美化並びに施設設備を大切にすることを育む取り組みとなった。文化祭・体育祭等の学校行事では、生徒の自主的な参加が見られるとともに生徒会活動も活発になりつつある。部活動では、水泳部、レスリング部が近畿大会に出場した。レスリング部、ボーリングが国体に出場した。</p>	A
3	基本的生活習慣の欠如から、体力的、精神的に望ましい成長が見られず、自分の健康や安全に対する意識が不十分な生徒も見受けられるため、保護者や地域、各関係機関との連携や協力の下、生命の大切さを啓発していく。防災面では、今後発生する確率が高まっている南海トラフ地震や水害等に対し、「自助」、さらには「共助」「公助」に向け、これまで以上に効果的に防災意識を高められるよう取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 命を大切にするための取組が計画的に実施されているか 保護者や地域、防災関係機関との連携や協力的体制が図られているか 	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育・健康教育の計画的推進 校内防災組織・整備の充実 職員による防災訓練の実施 防災スクールの実施(地域との連携) 地域の防災関連行事への参加(地域との連携) 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全、薬物乱用、防煙、性教育等各種講演の実施 防災訓練の複数実施 メール一斉配信の登録数増加 学校掲示板の周知徹底(生徒/保護者) 防災科目内容の充実 防災委員(生徒)の積極的な活動 実施、参加後のアンケート結果の集約と活用 保護者や地域の方の協力及び参加人数 各種外部団体との連携強化 	<p>交通安全や防煙、情報モラルに関する講座を計画的に実施することができた。防災スクールや地域の災害ボランティア等に積極的に参加し、防災意識の向上が図れた。年度初め、津波防災の日、学年末の3回、地震・津波の避難訓練を実施した。学年末の訓練では本年度は休憩時間中に訓練を実施し、より実践的な取り組みとなった。学年掲示板を設置するなど、連絡体制を強化し、そのことを年度初めの防災訓練で、生徒・保護者・教職員に徹底している。メール一斉配信の登録数は、昨年度より大幅に増加した。卒業式当日の警報発令時にも大きな混乱無く実施できた一因(成果)と考える。</p>	B
4	進路関係未決定者の更なる減少に向けて、分掌・学年・クラブ顧問と密に連携する。生徒・保護者の進路に職業安定所等の外部機関との連携を継続していく。生徒が安易な進路選択とならないような指導、卒業後の進路先で必要な力をつけるために組織的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が勤労観・職業観を高めるための具体的な取組が行われているか 卒業後、進路先で適応していける力をつけるための取組がなされているか 	<ul style="list-style-type: none"> 「総学」での取組、補習・個別指導等による基礎学力の養成 個人面談の充実 応募前職場見学の推進 職業安定所など外部機関との連携、外部講師や卒業生による進路講演会やガイダンスの積極的実施 進学希望者に対する計画的指導 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者数の減少 フリーター希望者数の数 応募前職場見学者数とその割合 進路未決定者の減少 進学模試受験者数 	<p>就職・進学ともに進路実績を伸ばすことができた。また度末毎に「総合的な学習の時間」の取組方法を改善してきたことも、進路実績の向上につながった。進学面では、特に継続的な進学補習が実を結び、昨年度同様、看護系を中心に成果を上げた。外部機関とは、ハローワークをはじめ、綿密な連携をとることができた。また、外部講師や卒業生による講演も実施することができ、生徒にとって良い刺激になった。社会福祉協議会との連携による介護資格取得の取り組みも着実に成果をあげている。</p>	A

学校関係者評価
平成30年 3月9日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの新翔生徒が明るく生き生きと学校生活を楽しんでいると思います。登下校時に元気に挨拶をしてくれる生徒もいます。 ○新翔生はみんな明るく楽しい学校生活を送っていると思います。 ○日頃、地域や学校での生徒の服装や態度等かなり安心してみられる。新聞紙上で、クラブ活動や学校行事等の生徒の活動を楽しみに拝見しています。 ○新翔生はよく挨拶する。 ○先生達は校門指導等熱心に取り組み、行事等においてもよく頑張っていると思います。 ○先生方は熱心に取り組んでいるのがわかります。 ○100周年記念事業では立派な式典を開催できた。校長をはじめ教職員のご苦労、団結した姿、又、生徒の一生懸命な姿に感銘を受けました。今後とも同窓生として支援をしていきたいと思えます。 <p>(要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地方新聞やHP等で生徒の活動状況を知ることができず、もっと生徒の様子をアピールしても良いと思います。 ○ボランティア活動を活性化することで地域との関わり、働きかけをさらに積極的にすすめて欲しい。 <p>(評価)</p> <p>10項目中8項目において、A(そう思う)とB(どちらかというとそう思う)を合わせて80%(83.1%)を超え、全般的に肯定的な評価をいただいた。もっとも評価が高かったのは例年同様、aの「本校の生徒は、明るく生き生きと学校生活を送っている」、e「本校は地域等の活動に対して協力的である」であった。本校の教育目標でもある「社会に役立ち、地域に貢献できる人材の育成」が着実に成果を上げている結果と考える。</p> <p>d「本校には、他の学校には無い特色があると思えますか」と例年もっとも評価が低かったc「本校の日常の教育活動に、保護者や地域の意見が取り入れられている」(20ポイントアップ)の2項目が飛躍的に向上した。育友会総会や進学保護者会など様々な機会を捉えて学校側からの情報発信を効果的に行いつつ、学校評議員会や保護者懇談会といった外部からの学校教育活動に対する意見を直接吸収、集約できる場を設定してきた成果と考える。</p> <p>f「本校では基本的な生活習慣や規範意識を身につけるため適切な指導が行われていると思えますか」についても高評価(92%)をいただいたが、1名だけ厳しい評価(D)があった。ごく一部の生徒の行動等が全体の印象になっているものと思われるが、あらゆる教育活動を通して、全教職員で生徒指導のさらなる徹底と充実をめざしたい。</p>